



基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- 1 年頭所感 岩崎、岡田、中島、高見、甲斐、福泉、富永、西山、佐々木
- 2 さわやかナースィング 田村美和
- 3 九州医療センター公式キャラクターがついに決定いたしました!! 広報委員会
- 4 医療最前線 古山 正
- 5 チーム医療ルネッサンス 高見裕子
- 6 ヒポクラテスのカフェ 吉住秀之／九州ところどころ
- 7 地域医療連携だより つつみクリニック 堤 光太郎
- 8 7年ぶりの病院情報システム更新 若田好史
- 9 第77回国立病院総合医学会に参加して 伊藤 悠



一人ひとりがKMC ～ひたすら病む人に寄り添う～

院長 岩崎 浩己



新年あけましておめでとうございます。

九州医療センターは1994年7月の開院ですので、今年は30周年の節目の年です。昨年4月に院長を拝命し、過去に経験のないほど密度の濃い一年でした。よちよち歩きの新体制を暖かく支えていただいた職員の皆さんに心より感謝しています。患者さんに愛され頼られる九州医療センター、職員の皆さんが安心して学び働ける九州医療センターであり続けるために、最大限の努力を続けることを年初にあたり改めて決意したところです。

さて、2022年8月に惜しまれながら90歳で逝去された稲盛和夫さんの話をしたいと思います。鹿児島に生まれ27歳で京セラを創業、同社を世界的な電子部品メーカーに育て上げ、52歳で第二電電（現KDDI）を創業し通信自由化の道を拓いた財界の巨人です。リーマンショックの煽りを受け、戦後最大の負債額2兆3千億円を抱えて経営破綻した日本航空（JAL）の再生を任せられ同社会長に就任されたときは78歳。僅か2年7ヶ月という驚異的なスピードで再上場を果たし、JALを見事に復活させた経営手腕は多くのビジネス書で語られています。有名な“アメーバ経営”は、大きな会社組織を独立した小集団に分け、それぞれに共通のフィロソフィ（経営理念・社是）をもった“リーダー”を任命して組織運営することで、全員参加型の強固な会社組織を作り上げるというものです。当院を含め病院組織に於いても既にそのような体制が敷かれています。診療部であれば診療科長、看護部であれば看護師長、それぞれの部門の職場長は「病む人に寄り添う」という九州医療センターのフィロソフィ（基本理念・院是）を“考え方”の中心に据えてチームをまとめていただいていると思います。マネージャーとしての業務管理も大変だとは思いますが、職場長の皆さんには寄り添う医療の徹底という当院にとって一番大切なこと

を隅々まで行き渡らせる“リーダー”としての役割を引き続きお願いいたします。

稲盛さんがよくお話しになった“成功方程式”というものがあります。「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」という計算式で、“能力”は持って生まれたものから努力して得たものまで含め点数で表せば0点から100点、それにかけ算する“熱意”も無気力から全力投入までやはり0点から100点、そして最後に掛かってくるのが“考え方”。この“考え方”についてはマイナス100点からプラス100点まであり、正しいプラス方向を向いていなかったら熱意×能力の積がいくら大きくても一瞬にしてマイナスの結果に転じてしまうと言うことを説いておられます。「人として正しい考え方」を持ち続けることは生きていく上で必ずしも容易なことではないと誰もが知っています。特に仕事においては不平不満であったり損得勘定であったり、マイナスの考え方が表に出がちですが、一日一日振り返りながらプラスに修正していく心の持ちようが大切と気づかされました。それは即ちフィロソフィに立ち返りひたすら寄り添う医療を実践することなのだろうと思います。“すばらしいJALとなるために”と題された稲盛さんのJALフィロソフィの最初に謳われているのは「一人ひとりがJAL」という何とも明快なメッセージです。完全なバクリではありますが、「一人ひとりがKMC」という意識でこの一年過ごしましょう。その先にはきっと、自信と誇りに満ちあふれたすばらしい景色が見えるだろうと確信できます。

【出典】

大田嘉仁 著

「JALの奇跡（稲盛和夫の善き思いがもたらしたものの）」



一隅を照らす情熱

副院長（院内総務） 岡田 靖



新春のお慶びを申し上げます。私には患者の医療安全、職員の安全衛生、病院の機能評価、福岡県の循環器病総合支援センター実務の4つの目立たない仕事があります。

今年は働き方改革における医師の時間外労働の上限規制

のスタートする年であり、安全衛生・勤務環境改善委員会などを活用し、より良い勤務環境を整えます。当院は国立病院機構の代表病院で多くの研修医、専攻医、成長途上の医師・新人看護師・メディカルスタッフが学びの徒として貴重な経験で成長しながら、質の高い医療と看護サービスを提供しています。医師の働き方はタスクシフト（委譲）より、ともに働くタスクシェア（協働）を基本としています。「学習と成長」の職場で「働く」ことの愉しさを実感できる病院をめざし、情熱をもって勤務環境を改善していきます。

今年7月には病院機能評価（Ver3.0）の受審を控え、指摘されている課題があります。なかでも大切な点は高度侵襲的な医療を行う際に患者・家族に寄り添い、親切丁寧でわかりやすい説明を行い、患者・家族が十分理解し納得した上で医療を進めるプロセスを普及することです。これは医療安全の

面からも重要で、インフォームド・コンセント（IC）の主役は患者であり、医師の一方的な「ムンテラ」とは異なります。ICは今や「説明と同意」から「説明と協同意思決定」に替わっています。このプロセスの実践には医師と看護師、メディカルスタッフの協働が必要です。膨大な説明文書をただ渡して診療録に定型の説明文を張り付けるのではなく、そのプロセスの重要性を理解し、自然に実践できる組織風土を醸成することをめざしています。超高齢者や認知症の人、社会的問題を抱えた患者さんが増加し、臨床現場の倫理的な課題も増えてきました。あまり注目されない仕事であっても、職員の心（スピリット）を動かし行動変容が起こるよう、情熱をもって着実な活動を行ってきたいと思います。「一隅を照らす」は最澄の有名な言葉です。薄暗い部屋の隅のろうそくにわずかな火を灯すのではなく、四隅を情熱で煌々と照らし病院全体を明るく元気にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

副院長 中島 寅彦



新年あけましておめでとうございます。昨年は高精度放射線治療装置の導入、手術用ロボット2台目（ダビンチXi）の導入など当院の癌診療を大きく前進させる年となりました。コロナ禍により減少していた新入院患者数や外科

手術数も回復しております。今年は6月に病院北側に建設中のリニアック棟も完成し稼働が開始されます。勢いのある龍になり、さらに上を目指していけるようにと願っております。

一方で働き方改革により、限られた時間とマンパワーを有効に活用する術や能力が問われる時代となりました。職員としての意識づけや職員満足度の向上のためにも業務効率化の推進が重要課題といえます。

当院では昨年から広報活動に力を入れています。ダビンチ手術件数1000例達成の紹介動画をきっかけとしてYouTubeチャンネルを立ち上げ、「救急医療」「病院食改善」「看護部の仕事紹介」「研修医の声」などをテーマに動画を発信しています。

また、ホームページ、X（旧ツイッター）による情報発信にも注力しています。院内外の患者さんやクリニック、学生への情報提供が主たる目的ですが、院内職員のコミュニケーションを深めることにも役立てたいと考えています。

今年は九州医療センター30周年を迎えます。昨年、院内職員への募集と投票により選ばれたイメージキャラクターも誕生しました。コロナ禍で停止していた職場の時間外の交流の場も回復しています。職員間のコミュニケーションを重要視し、九州医療センターで働くことに喜びを感じられる環境づくりを進めてゆきたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

臨床研究センター長 高見 裕子



新年あけましておめでとうございます。旧年中は各部門・センターの皆様から多くの論文投稿・学会発表を頂き、また活発な治験導入を頂くなど、院内の臨床研究にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

2024年、辰年の幕開けです。辰（龍）は中国の伝説による五行思想では、成長のシンボルだそうです。臨床研究は新たな治療・技術開発という医療の場における成長の大事な礎です。辰の年に、当院の臨床研究もさらなる飛躍を遂げ、医療の進歩

成長に貢献できる！そんな目の前に広がる可能性に心からの期待を寄せます。

昨年、臨床研究センターでは学会発表に際する旅費サポートを手厚くしたり、治験資料電磁化システム（Agatha）を導入するなど、皆様の臨床研究活動のご支援に取り組んで参りました。

本年も引き続き、臨床研究センターは皆様が快適に臨床研究活動に取り組んで頂けるよう、環境や体制づくりの上で尽力して参りたいと存じます。なにかお気づきの点がございましたら、いつでもなんでもご意見くださいませ。

この年が、皆様にとって次の成長への新しい始まりとなり、希望の光輝く1年となりますことを願っております。

年頭のご挨拶

統括診療部長 甲斐 哲也



皆様、新年あけましておめでとうございます。2024年は辰年で、万物が振動するといわれ、「変革」や「激動」が起こりやすい年なのだそうです。医療界にとっては、働き方改革が義務化される、大変革の年です。しかし当院は、

岡田副院長主導の下、着実に準備を進めてきましたので、勤怠管理が厳格化されて面倒にはなりますが、慌てることなく、4月以降も今までどおりの業務運用で乗り切れると信じています。本年の当院のもう一つの大イベントは病院機能評価の受審

です。マニュアルの改訂など、普段なかなかできていない作業を見直して、業務の質を改善する、いい機会でもあります。大変ではありますが、職員みんなで力を合わせて、病院全体の医療の質を向上し、さらに地域の皆さんに頼りにされる病院になるようにしたいと思っています。

電子カルテ更新、手術支援ロボットda Vinciの増設などの大型投資によって病院の経営は苦しい状況です。しかし投資は発展の礎です。今年はリニアック棟が出来上がり、新しい放射線治療の環境が整います。新年を迎え、新しくなった電子カルテ、増設されたda Vinciとともに、リニアック棟の完成を想い描き、本年の病院の飛躍を祈念しています。

令和6年九州医療センター 開院30周年を迎えて

医療管理企画運営部長/医療情報管理センター部長 併任
地域医療研修センター長/
栄養サポートチームチェアマン/消化器内科

福泉 公仁隆



新年あけましておめでとうございます。昨年は、令和5年11月に当院の病院情報システム（電子カルテ）の更新作業を実施いたしました。更新作業について関係各所の皆さまには、多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。

さて、令和6年7月には当院が開院して30周年を迎えます。施設のところどころで老朽化しているところもありますが、改修して患者の皆さま、職員も過ごしやすい環境になるように検討しているところです。新しい放射線治療（リニアッ

ク）棟の建設も進行中で、令和6年12月の稼働を目指しています。また、令和6年4月より医師の働き方改革も正式に始まります。当院でも専門性を活かしたタスクシフト/タスクシェアにより、地域の皆さまに求められる質の高い医療を提供いたします。地域医療研修センターでは、各診療科の協力により地域医師のための生涯研修セミナーを福岡県医師会との共催で、当院現地開催とWebでのライブ配信のハイブリッドで開催し日常診療に役立つ最新情報を発信しています。地域の多く医師の皆さまにご参加いただきますようお願いいたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

研修医採用試験について

臨床教育研修センター長 富永 光裕



年頭にあたり、まずは臨床研修にご協力頂いているスタッフの方々に感謝申し上げます。

毎年の事ではありますが、8月末に実施している研修医採用試験への思いを述べてみます。

幸いにも、今年度も27名の募集定員に90名を超える応募がありました。採用試験は、当センターの重要な行事の一つです。まずは採用試験までのスケジュール調整に始まり、小論文演題、面接員の選定や試験当日の会場設営など、病院全体に協力

のお願いをして準備を進めます。指導医のみならず多職種の指導者の協力のもと、元気で研修へのモチベーションが高く、コミュニケーション能力に長けた方を選抜したいと思っています。受験者の方々が、小論文、面接において、自分の言葉で当院での研修への思いを上手く表現出来ているのかは、気になるところであり、さらに彼らに順位を付けるのはやはりとても神経を使う作業です。

今年も将来性を感じさせる受験者が数多くいましたが、募集定員枠があり、またマッチングにより、全てが期待通りの選抜にはなりません。4月から九州以外の3大学を含み12大学から27名のフレッシュな研修医を迎えます。病院全体で彼らを育てていくことをお願い致します。

新年のご挨拶

看護部長 西山 ゆかり



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年の干支は甲辰、甲は十干の一番目で物事のはじまり、草木が成長し勢いを増す様を表し、辰は万物が成長し

動きが盛んになる様子を象徴するそうです。上昇し勢いを増しながらぐんぐんと成長していく年となりそうです。私達の九州医療センターも、創立30周年のメモリアルな一年となります。働き方改革の推進、病院機能評価受審も控えていますし、医療・介護・障害のトリプル改定の年でもあります。医療を取

り巻く状況は、刻々と変化していきますが、当院の理念である、「病む人に寄り添う」を基軸として、世の中の動向を捉えながら、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。看護部の取り組みの一つである、職員に寄り添うプロジェクトでは、お互いをリスペクトし、志高く自己実現できるよう職場環境の向上に努めてきました。今年も職員一丸となって、継続して取り組んでいきたいと思います。そして地域の皆様に必要とされる九州医療センターであり続けるよう、看護部長としてできることに真摯に取り組み、共に上昇し成長していきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新春のご挨拶

事務部長 佐々木 豊光



新春のお慶びを申し上げます。地域の先生方には、日頃よりお世話になっておりますことに、心より感謝申し上げます。

昨年も、皆様のご理解とご支援のもと、円滑な医療連携の実現により、患者様に良質

な医療を提供することができました。まことにありがとうございました。今年も、一層、病む人に寄り添い、地域社会に貢献できるよう、精進してまいります。

当院は、患者様の健康と幸福を最優先に考え、安全かつ最適な医療を提供することを理念としております。そして、その実

現のためには地域医療機関との連携強化は最重要事項と考えております。

新年にあたり、ますますの協力と連携を深め、共に地域医療の向上を目指していきたいと考えております。医療の進歩と知識の共有を通じ、患者様がより安心して医療を受けられる環境を整えていく所存です。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新たな年が始まり、新たなチャレンジが待っています。九州医療センター職員一丸となって、患者様と地域の皆様の健康と幸福に貢献すべく努力を重ねてまいります。

今年も変わらぬご支援とご協力を九州医療センターに賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

第77回国立病院総合医学学会に参加して

9階西病棟 看護師長 田村美和

10月21日 広島県で開催された第77回国立病院総合医学学会に参加してきました。

「働き方及び勤務時間に関する看護管理者の意識改革への取り組み」と題して、昨年度、看護師長研究会で働き方改革プロジェクトとして「ノー残業デー」を目標に労務管理に関する取り組みを行った成果を発表させていただきました。看護職員の時間外勤務が多い現状に着目し要因を分析したところ、次勤務者へ業務を引き継ぐことに遠慮や抵抗感があるスタッフが多いことや、勤務時間内に業務を終わらせることを重要視していないことがわかりました。そこで、スタッフが労務管理に関する知識を習得し、自ら業務調整やタイムマネジメントを実践していくことで、働き方改革に対する意識の醸成やチームワークの強化も期待できるのではないかと考えました。そのためには、まず看護管理者である自分たちが労務管理について十分な知識をもち行動変容することが必要であると考え、取り組みを開始しました。取り組みに当たっては、プロジェクトメンバーで労働基準法について書籍を購入して調べつつ、就業規則を読み解き、看護部長、副看護部長と熱い勉強会を重ねな

がら、根拠に基づいた学習会資料を作成しました。作成した資料を用いて看護師長学習会を実施後、看護師長から副看護師長へと学習会を拡大し、最後に互いの労務管理に関する知識確認を行いました。その後、各病棟で勤務時間・時間外勤務に関する課題を挙げ、解決に向けた取り組みを実施してもらいました。その結果をまとめたものが、今回の発表となりました。

学会当日、いよいよ発表の出番になりました。口演で持ち時間は7分、質疑応答3分の計10分。緊張の最中、どのような質問が来るのかなどを考えながら発表し、座長からの質問も無事に返答。ようやく出番を終え、安堵。すべての演題が終了し、ベスト口演賞の発表へ。なんと！嬉しいことにベスト口演賞を頂きました。その夜は一緒に取り組んだ看護師長さん達と大喜びし、広島名物のお好み焼でお祝い！最高のディナーになりました。学会での発表を無事に終え、自身としても一つ成長の糧となる経験を積むことができてとても嬉しかったです。



九州医療センター 公式キャラクターが ついに決定いたしました！！

応募総数39作品の中から、職員投票の結果、ピンクのフクロウ「ももろう」が選ばれました。福岡の「福」から縁起が良いとされるフクロウを連想し、地域の方々にも医療者にも親しみやすく愛されるキャラクターを作りたい！という作者の思いが込められています。

「ももろう」という名前は、百道浜×ももいろフクロウからきています。今後は、商標登録しキャラクターグッズの作成等も行っていく予定です！どうぞ楽しみに！

※商標登録の関係上、名前や見た目が若干変更になる可能性があります。

広報委員会



はじめに

血管外科の診療において、まず、問診、触診、聴診(ドップラー)にはじまり、さらなる診断方法としてエコー、CT、MRI、そして血管造影などがあげられる。これらのなかでエコー検査は最も低侵襲な検査方法であり、血管外科医が最も早く習熟する手技である。近年の血管内治療の発達に伴い、動脈穿刺の機会が増え、仮性動脈瘤などの穿刺合併症に遭遇する機会も増加した。穿刺合併症の発生要因として、動脈の走行異常、石灰化、内腔の狭窄病変などがあげられ、これらはエコーで観察することで穿刺前に情報を得ることが出来る。我々は穿刺合併症を減らすためにエコーガイド下動脈穿刺をルーチンに行うようにしている。

腹部大動脈瘤

手術術式の1種である、ステントグラフト内挿術時に使用される機会が著増した。以前はシースサイズが大きかったため、カットダウンした大腿動脈を直接穿刺する方法がとられていたが、デバイスのlow profile化と、2021年から本邦においても保険償還下で使用可能となった止血デバイスによりエコーガイド下、経皮的大腿動脈穿刺によるステントグラフト内挿術が安全に行えるようになった。7～12MHzのリニア型プローブを用いて大腿動脈を縦軸方向で観察する。穿刺時には、穿刺部の性状、穿刺孔が12時方向にあること、そして、止血デバイスのフックが適正部位にかかっていることを確認する。止血操作後には仮性動脈瘤や狭窄がないことを観察する。



写真1 大腿動脈穿刺時

下肢閉塞性動脈疾患

血管内治療(カテーテル治療)の進歩と普及に伴い、動脈穿刺の機会が増えた。また、従来は動脈穿刺部として大腿動脈と上腕動脈が主であったが、近年は、橈骨動脈、膝窩動脈、足背動脈、後脛骨動脈など穿刺する動脈の種類も増加した。従来は主としてバイパス手術を行っていた、長区間の閉塞病変に対しても血管内治療で治療可能となってきたことが要因である。長区間の閉塞病変においては複数方向からのカテーテル挿入が手技成功率を上げるため、必要に応じて膝窩動脈、足背動脈、後脛骨動脈などを穿刺することがある。これらの穿刺の際にはリニア型プローブもしくはホッケー型プローブを用いて穿刺する。

まとめ

現時点では動脈穿刺時に体表エコーを用いることで穿刺時間や穿刺合併症が減るといったエビデンスはない。穿刺経験数が多ければ、エコーガイド下でない方がスムーズに穿刺可能であるという意見もある。しかし、今後、機会が増えるであろう細径の動脈や石灰化、動脈硬化が高度な動脈をより安全に穿刺するために、エコーガイド下穿刺の習熟と普及が必須であると我々は考えている。最後に、エコーガイド下血管穿刺の技術は血管外科以外の医師に関しても必要な手技である。我々は当科をローテーションした研修医が適切なエコーガイド下血管穿刺の技術を習得できるよう丁寧に指導を行っている。

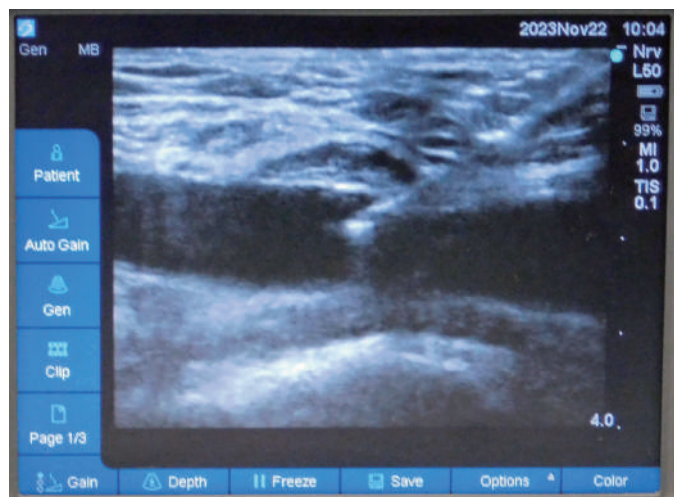


写真2 穿刺時エコー画面



写真3 ホッケー型プローブ

九州医療センターでは多数の科が日々がん患者さんとそのご家族に寄り添いがん診療を提供しています。それらの科を統括し、院内のがん診療機能を支えるのが「がん診療統括部」です。

地域がん診療連携拠点病院

日本のがん対策は「がん対策基本法」と「がん対策推進基本計画」により総合的に計画・推進されています。この中で全国どこでも質の高いがん医療を提供できるように設定されたのが「がん診療連携拠点病院」です。

福岡県内には、県全体を牽引する「県がん診療連携拠点病院」2か所（九州大学病院・九州がんセンター）のもと、「地域がん診療連携拠点病院」20か所、「地域がん診療病院」2か所の計24か所が整備されており、当院は地域がん診療連携拠点病院に該当します。指定要件は厚労省にて定期的に見直され「整備に関する指針」として通知されます。がん診療統括部では、当院がこの指針にて示される指定要件を満足するかチェックしつつ、がん診療のさらなる充実に向けた体制を整える機能を担っています。

例えば、新指針中の「人材育成」の項に「自施設の診療従事者等のがん対策について学ぶ機会を年1回以上確保していること」という条件が加わりましたので、きたる1月30日九州医療センターフォーラムにてその機会を設けさせて頂きました。（皆様のご参加、よろしくお願いいたします！）



がん相談支援センター

がん診療統括部は3つのセンター（がん登録センター、化学療法センター、がん相談支援センター）から構成されています。このなかで、がん相談支援センターは新指針にて整備の強化が最も謳われた部署です。

がん相談支援センターはがんと診断された患者さんやご家族がそののちに抱える医療や療養等への課題や不安に、無料で対応する窓口です。外来棟外科外来奥に窓口を設置し、毎日ご相談を受け付けています。

がんサロン

がん患者さんとそのご家族が互いの経験を共有することで、孤独感や不安を軽減して頂ける場ががんサロンです。当院では2通りのサロンを企画運営しています。

①がんを語り合う会

年に3回、患者さん・ご家族に参加頂き、研修を受けたピア・サポーターや専門職も出席して開催されます。2部構成としており、第一部は講演やレクリエーション、第二部を語り合いの時間としています。これまでの第一部では、がん治療のうえでの社会資源



の活用（つまりお金の相談）や、リラックスを目的にヨガやミニ音楽会を企画しました。第二部で、お互いの体験の語りや傾聴が行われ、悩んでいるのは自分だけではなかったといったお声を頂いています。予約が必要ですが、院内外からたくさんの方にご参加頂いています。

②患者サロン「れいんぼうサロン」

年6回、奇数月第二木曜日午後院内がん相談支援センターにて開催されます。院内の方に限られますが、予約は不要で、患者さんやそのご家族に気軽に集まって頂き、思いや悩みを打ち明け交流頂く場としています。マスコットキャラクターれいんぼう君が皆様をお待ちしています。

地域との連携で取り組む支援

①リレーフォーライフジャパン in 福岡

地域全体でがんと向き合いがん征圧をめざすチャリティイベントで、市内で年1回開催されます。今年度は昨年10月22日晴天のもと、福岡県知事・市長もご参加のうえ開催されました。がん診療統括部は毎年これに出席し、特に今回は募金集めのためのバザーも開きました。



②いのちのホームルーム

福岡県とNPO法人キャンサーサポートが共同開催する“未来ある子供たちへ伝えたい”がん教育プロジェクトで、市内小中学校に出向き、正しいがんの知識・いのちの大切さを伝えます。今年度は8回、がん診療統括部から講師の派遣を行いました。



このような様々な形で、がん診療をこれからも支えていきたいと思っています。「がん診療統括部」を今後ともよろしくお願いいたします。

マスコットキャラクター
れいんぼう君





ヒポクラテスのカフェ

“食物連鎖：ホヤの話”

NHO 都城医療センター 吉住 秀之

ホヤは仙台等の海に多く、科学上魚類に近い物ながら、外見^{なまこ}海參に酷似す。
(南方熊楠『十二支考』)

ホヤ *Ascidacea* (語源はギリシャ語の askos (酒を入れる革袋) に由来) は、九州では馴染みのない食材ですが、東北地方では珍味とされており、フランスでは海のイチジク、イタリアでは海のレモンとも言われ食用に供されます。外見だけで判断するとイソギンチャクなどの仲間かと思ってしまうのですが、分類上は脊索動物の尾索類に分類され、実は私たちヒトに最も近縁の無脊椎動物です。卵から生まれた幼生は脊索を有し、ヒレを使って海中を遊泳します。その後海底の岩に付着すると脊索は吸収され、私たちが見慣れたホヤの形に変化するのです。

口に相当する部分を上に向けて植物プランクトンを海水とともに吸い込むのが彼等の食事です。喉に相当するのが鰓嚢といわれる部分で、これを取り囲むようにして内柱という外分泌腺構造をもっています。進化的にはこの内柱は甲状腺の原始器官だろうと推測されています。植物プランクトンとともにヨードをたらふく食べているホヤにとってもその体内での利活用は有用だったのでしょう。実際ホヤは甲状腺刺激ホルモンに類似したサイロスティミュリン *thyrostimulin* という糖タンパク質をもっています。

冒頭に引用した南方熊楠が仙台に多いと言っているようにマボヤの主産地は三陸沿岸で、1905年ころから養殖が始まっています。ホヤは11月から1月の寒い時期、特に冬至の大潮の頃に産卵をする生態を利用し、現在では蛎殻を沈めてそこに付着した幼生を養殖していきます。4年後大きく育ったホヤは収穫され、その7割は韓国に輸出され、酢コチュジャンにつけて食べられています。

2011年の東日本大震災では三陸のホヤ養殖が壊滅的な被害を受けた上に、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質での海洋汚染のため韓国から輸入禁止をされたという二重苦に見舞われました。同発電所の処理水については現在も海洋放出が環境問題、政治問題となり大きな懸念が持たれていることには心が痛みます。

食材だけではなく、ホヤは海洋天然化学の分野でも大いに注目されている存在で、ホヤから単離されて構造決定されたジデムニン (*didemnin*) という環状ペプチドは、強力な抗がん作用を有することが1981年に発見されました。残念ながら心毒性のために創薬には至りませんでした。その類似化合物デヒドロジデムニンBは、多発性骨髄腫の治療薬としてEUやアメリカで承認されています。別種のホヤからも抗腫瘍化合物が抽出され、トラベクテジン (希少がんである悪性軟部腫瘍に適應) の創薬に結実しています。さらに最近ではそのタンパク質翻訳伸長因子阻害による抗ウイルス活性が明らかになり、SARS-CoV-2に対する有効性も報告されています。この薬理活性はレムデシベルの約30倍と強力であることから今後の展開が期待されます。見かけによらずなかなかの生物です。

九州とことところ

久留米市田主丸へのお誘い

福岡から西鉄特急電車で30分とアクセス抜群の久留米市についてご紹介させていただきます。久留米と云えば、ラーメンや焼き鳥を思い浮かべる方も多くいらっしゃると思いますが、古くから酒造りが盛んな地域としても有名です。久留米市田主丸は耳納連山からの伏流水によって大変美味しいお酒が精製されています。今回は、そんな田主丸の紅乙女酒造と巨峰ワイナリーに

行ってきたお話です。目的地の最寄り駅であるJR田主丸駅は、河童をモチーフにした全国的にも珍しい駅舎となっています。ここは巨瀬入道の河童伝説の地でもあり、町のいたるところで河童のオブジェを見ることができます。

紅乙女酒造と巨峰ワイナリーは立地的にも隣通しとなっており、歩いて行き来することができます。紅乙女酒造の貯蔵庫はステンドグラスが輝き、天井も高く教会のような造りででした。写真は、樽にて熟成中の焼酎です。こちらでは全国的にも珍しい胡麻焼酎を熟成しています。巨峰ワイナリーでは、ワインはもちろんのこと、田主丸で採れたフルーツをふんだんに使用したフルーツワインをお勧めします。我が家では特にブルーベリーワインが好評です。どちらも店頭に並んでいる様々な焼酎やワインを試飲することが可能で、飲み比べることができるので、これだけでも十分に楽しめます。

私は、樽熟成の焼酎とブルーベリーワインを購入しました。皆さまのご参考になれば幸いです。

ペンネーム：久留米市のゆるキャラはくるっば



地域医療 連携 だより

「恕」の精神で 「真の安心」を

医療法人徳隣会 つつみクリニック
理事長 堤 光太郎

私たちは2014年に在宅医療に特化した診療所として誕生し、今年で10年目を迎えました。今では東京、山口、福岡、佐賀に6カ所の拠点を設け、170名のスタッフが2500名の患者様のケアに24時間対応しています。

内科、外科、整形外科、泌尿器科、精神科、小児科、皮膚科と様々な分野の専門医が連携し、法人内には訪問看護ステーションやケアプランセンター、医療連携室、臨床検査/放射線部門も擁し、循環型医療・介護を切れ目なく提供する数少ないクリニックです。

また、訪問診療を受けておられない患者様でも、初診での往診を24時間対応しております。

その他、200以上の高齢者福祉施設への訪問診療実績を

活かし、退院後の入居紹介支援サービスを無料で行っております。再度入院が必要となっても、これまで診て下さった医療機関様への橋渡しを責任を持って行い、地域包括ケアシステムにおけるハブとしての役割を全ういたします。

最大の特長は、人間関係に重きを置いた温かい医療環境です。職種の垣根なくスタッフ一人ひとりが支え合い、謙虚に地道な努力を惜しまず、スタッフ全員が輝き、そして「人生意気に感ず」組織を目指しております。コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築くことで、安心して治療を受けていただける環境を提供します。

さらに、当法人は人材育成にも注力しています。委員会を特設し、年次計画に基づいて実施される研修を通じて、在宅医療という限られた資源しか使えない場で、従来病院でしかできないと言われてきた医療行為をどうやったら実施できるようになるのか模索し続けています。例えば、在宅での輸血、人工呼吸器管理、抗がん剤投与に始まり、今後は在宅腹膜透析の分野にチャレンジします。

これからも地域医療の発展に貢献し、患者様の健康を守るために尽力してまいります。地域の皆様の健康と幸福のために、私たちと共に歩んでいただければ幸いです。



7年ぶりの病院情報システム更新

医療情報システム管理部長
若田 好史

去る2023年11月19日、2016年秋以来、7年ぶりに当院の電子カルテシステムをはじめ約9割の部門システムを含む病院情報システムの更新を実施いたしました。今回の更新は2021年春以来、更新概要の検討、国立病院機構本部との交渉、業者の選定、システムの開発、導入、切替作業の計画立案など実に約2年半の準備期間を要しました。さらに主体となる電子カルテのパッケージが、従来のものから最新のものに変更されるに伴い、データやこれまでの当院独自仕様の移行に時間がかかり、40時間のシステム停止を経て新しい電子カルテシステムへの更新が実現いたしました。

当院は702床の病床を有し、規模としては地方の大学病院に匹敵する規模があり、更新作業当日は11/18、19の2日間でPC端末1111台、プリンター354台、その他周辺機器を含め、すべての電子機器の入れ替えを実施いたしました。また大学病院ではこれほど多くの部門システムを電子カルテシステムと同時更新することはあまりなく、端末の入れ替え、システム更新作業を目の当たりにして、改めてそのスケールの大きさを実感いたしました。

更新直後は様々なトラブルも発生しましたが、診療現場のスタッフの多大な協力のおかげで、外来診療を止めるような

重大なイベントもなく、運用を実施できております。

また事前作業を含めた更新作業にあたり、診療業務の調整等により救急の受け入れ停止や紹介の調整等、その他様々な点で患者さんや近隣の医療機関の皆様にもご不便をおかけし申し訳ありませんでした。一方、システムパッケージが最新化されたことにより、患者さんやご紹介いただく外部医療機関の皆様の利便性を高める機能が実装されており、こちらも順次、周知、運用を開始して参ります。

今後も紹介医療機関をはじめ地域の医療機関の皆様また患者の皆様へのサービス向上につながるシステム運用を目指していきたいと思っておりますので、引き続き当院へのご厚情よろしくお願い申し上げます。



人事の動き

令和5年10月2日～令和6年1月1日

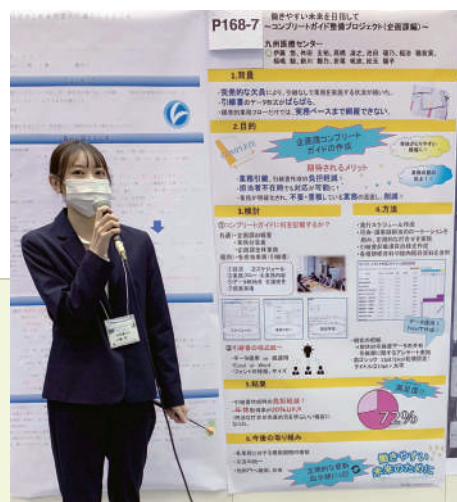
医療職（一）

就任	血液内科医師	原田 卓哉	退任	小児科医師	高野由紀子
----	--------	-------	----	-------	-------



第77回 国立病院 総合医学会に 参加して

企画課 伊藤 悠



この度、2023年10月20、21日に開催された第77回国立病院総合医学会にて、「働きやすい未来を目指して～コンプリートガイド整備プロジェクト（企画課編）～」のポスター発表を行い、ベストポスター賞を受賞しました。

昨年度企画課内で多数の欠員が生じ、引継ぎもままならないまま残った人員で業務をしなければいけない状況が続き、引継書の重要性を痛感しました。そこで、各々の業務だけでなく、他者の業務把握や情報共有を行う機会が必要と感じ、この取り組みを行いました。

コンプリートガイドはまだ作成途中のため、今後も文言の統一や業務に対する根拠規定の明示等、マニュアルの精度を上げていきます。現在働いている私たちだけでなく、今後当院で働く職員のためにもこのマニュアルが活かされ続けられと、考え、働きやすい未来のためにこの取り組みを継続していきます。

編集後記

表紙の絵は京都の祇園の近くにある建仁寺の双龍図（天井画）です。2002年の創建800年を記念して描かれたもので、壮大で一見の価値のある天井画です。また、俵屋宗達の有名な風神雷神図屏風（複製品）も飾られています。京都に行かれた時に時間があれば寄ってみるといいかも。

副編集委員長 占部 和敬

あけましておめでとうございます。今年は当院開院30周年となる記念の年です。次は50周年を目指して（？）龍の背中に乗って大きく飛び立つような年となりますように！

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

編集委員長 高見 裕子

医事統計 患者数・診療点数の推移

■令和5年度は、月平均入院患者数605人と、病床利用率86%達成に向けて取組んでいきましょう！（令和5年11月現在の暫定値）

外来新患者数は、今年度11月までの実績で15,041名と前年同月までと比べ1,451件の減となっています。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、11月までの実績で879.0名と昨年同月までの実績（909.7名）と比較して30.7名の減となっております。

1日平均入院患者数は今年度11月までの実績で573.6名と昨年同月までの実績（579.9名）と比較して6.3名の減となっております。新入院患者数は11月までの実績で昨年度同月までと比較すると675名の増となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して0.8日減って11.6日となっております。

入院1人1日当たり診療点数は、今年度11月までの実績で8,520.6点と昨年の実績と比較すると436.0点の増となっています。外来1人1日当たり診療点数については、今年度11月までの実績で3,293.0点と昨年同月までの実績と比較して98.9点の増となっております。

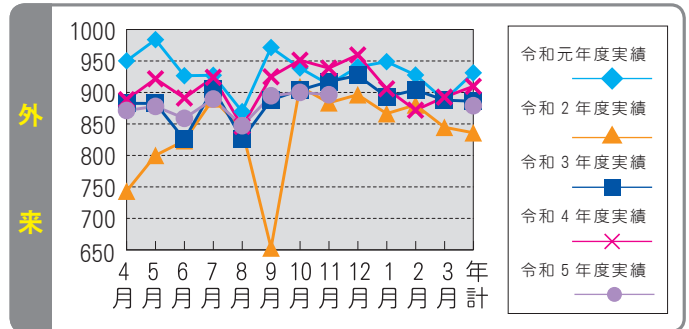
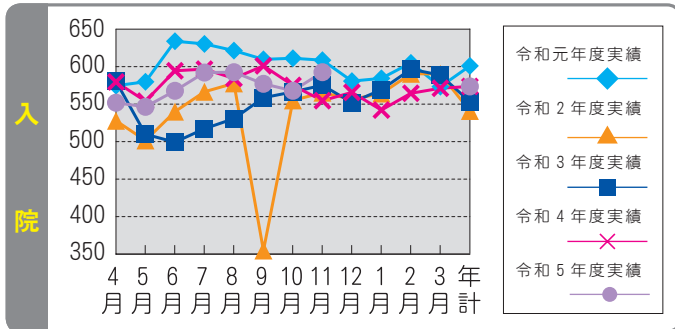
紹介割合は、11月までの実績で96.8%となっており高い割合を維持しています。

1日平均
入院患者数
(在院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	574.6	579.8	633.9	630.3	621.4	609.7	611.2	608.6	580.7	584.4	605.0	573.3	601.0
令和2年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4	567.8	592.1	592.6	577.1	567.8	592.6					573.6

1日平均
外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	950.2	983.9	926.6	927.3	869.6	971.4	938.9	912.7	940.5	948.9	927.7	887.7	931.2
令和2年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9	858.9	889.6	847.2	894.8	900.1	896.4					879.0

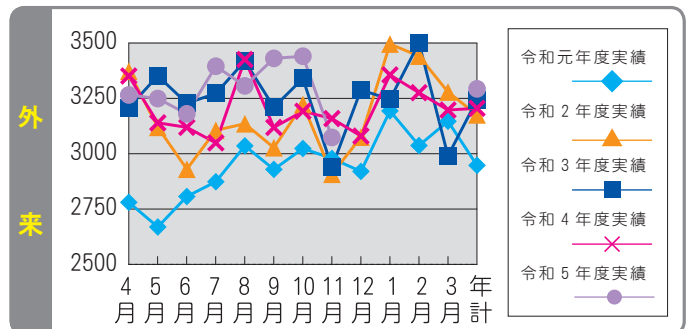
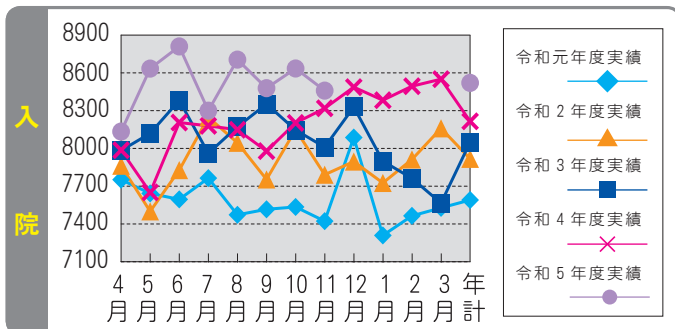


入院
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	7,752.0	7,642.8	7,595.5	7,764.1	7,472.8	7,516.6	7,535.3	7,422.6	8,086.5	7,309.2	7,464.6	7,528.1	7,590.5
令和2年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1	8,810.2	8,299.8	8,705.5	8,478.6	8,634.9	8,459.3					8,520.6

外来
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	2,780.4	2,669.1	2,806.7	2,873.5	3,035.4	2,929.2	3,023.6	2,978.7	2,920.1	3,193.5	3,037.1	3,146.7	2,947.4
令和2年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2	3,180.3	3,395.3	3,306.4	3,430.7	3,440.4	3,073.4					3,293.0



紹介割合
推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	98.6	98.4	98.7	95.6	97.8	96.7	97.6	98.3	100.3	98.2	98.6	94.1	97.8
令和2年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7	97.4	96.9	96.0	98.7	97.8	95.3					96.8

